

マリナーズ戦の一回、46号ソロを放つエンゼルス・大谷翔平。日本選手では2007年の松井秀喜（ヤンキース）以来となる100打点に達した=3日、シアトル（共同）

# 大谷有終 46号100打点



大谷の打ち方で特徴的なのが、バットを下から振り上げる動き。打球に高い角度がつき、「ボールをすくい上げられることが本塁打が増えた要因」と指摘する。特にシーズン序盤は、低

### 振り上げる打撃

大谷の打ち方で特徴的なのが、バットを下から振り上げる動き。打球に高い角度がつき、「ボールをすくい上げられることが本塁打が増えた要因」と指摘する。特にシーズン序盤は、低

め球をスタンドに運んでいった。ただ、決して簡単にできることではない。「重たいバットを振る時に重力に逆らうことになるので、相当な力がある」。頭をほとんど動かさずに体重移動し、のけぞるような姿勢になることでボールを下から捉える。この点は、大リーグでプレーを始めた2018年から明らかに変化している。

### 二刀流が好影響

投手との二刀流に挑戦する大谷だからこそ持つ「肩甲骨の周りや上半身の柔らかさ」もある。特に生かされるのが、テイクバックからスイングを始めるところにかけて。左肘を下ろしても、同時に左肩が下がることなく、「効率良くバットを出せる」のが特長で、他の選手にはまねできない。振り上げながらもコンパクトさを失わないため、大リーグで多く投じられる、手元で鋭く変化する速球にも対応できる。

右投げ左打ちの大谷は、打球と打撃の動作で回転が逆になる。「ゆがみを自然に取ってくれる形で二刀流は機能しているかもしれない」。一方の動きを繰り返すことによる重心の偏りを防いでいるとみられる。日本ハムでルーキーイヤーを過ごした後のオフ。大谷は川村准教授を訪ね、体の使い方などを学んだ。体づくりに意識はひととき高くなり、野球選手のピークとされる20代後半に向けて計画的に、強さと機能性、剛柔併せ持つ肉体に仕上げた。「単純に去年から今年が変わったわけではなく、プロ野球選手になってから体をつくっていった成果が今出ている」。長年の積み重ねが結実したシーズンだった。

### 肉体改造 剛と柔併存

筑波大・川村准教授

ア・リーグ本塁打王の座を最後まで争ったエンゼルスの大谷。周囲の想像を超えた活躍の要因を、筑波大で野球コーチング論を研究し、約千人の打撃フォームを分析してきた同大野球部監督の川村准教授(51)に「札幌市出身」に解説してもらった。

が癒えたのも大きい。大谷のフォームを可能とするのは単なる力強さではない。振り上げるスイングでは、ボールを捉えるポイントが小さくなる。打球の軌道に沿うようにバットを水平に走らせる打者と比べ、「線ではなく点で捉えるようにする。振り始めて素早くバットを出せるようにして、なおかつスイングスピードを上げていく難しい技術が必要」という。

レッドソックスの沢村はナショナルズ戦で0-2の三回途中から2番手で登板し、1回を1安打無失点1三振だった。7-5で勝ったチームはワイルドカードゲーム(WCG)に進み、

### 大リーグ

【シアトル共同】3日、各地でレギュラーシーズン最終戦が行われ、エンゼルスの大谷はシアトルでのマリナーズ戦に「一番・指名打者」でフル出場し、一回に46号ソロを放って日本選

手では2007年の松井秀喜（ヤンキース）以来となる100打点に達した。本塁打はア・リーグ最多48本のベレス（ロイヤルズ）とゲレロ（ブルージェイズ）に届かなかった。

（関連記事27面）大谷は3打数1安打1打点1得点、2敬遠四球2三振で、7-3で勝利。シーズンで45本塁打、100打点、25盗塁以上は史上5人目となった。

大谷は3打数1安打1打点1得点、2敬遠四球2三振で、7-3で勝利。シーズンで45本塁打、100打点、25盗塁以上は史上5人目となった。

## 大谷 異次元の二刀流完走

### シーズンMVP最有力



同日の試合で46号を放ち3位と健闘した。例年11月発表の30人の記者投票によるシーズン最優秀選手(MVP)では最有力候補に挙げられており、受賞すれば日本勢では2001年のマリナーズのイチロー以来となる。オンライン会員では、水原一平通訳を伴い、マドン監督とペリ・ミナシヤン(GM)と話し合いを持った。焦点は新たな起用法。ミナシヤンGMは大谷に「過去を踏襲するわけではない。ルールはない」と伝えた。約30分間の会談の末、登板日前後の試合で打者出場を避けるなどしていた従来の制約を外すことで、3者の意見は一致した。前所属のプロ野球日本ハムに倣った方針からの大転換だった。

昨年復活した二刀流は不振を極め、今季も同様に低迷すれば来季の継続が危ぶまれた。大谷は故障のリスクを冒してでも二刀流で成果を出す必要性に迫られていた。大谷の意思を最優先しながらも、けがの予防には腐心した。投手では2018年オフの右肘手術後のフルシーズンでの登板間隔を空けるなど、徹底的に調整された。体調に関しては大谷とメールを交換し、登板日前後の打者出場可否を判断材料にした。

大谷も調整を変えた。監督に「過ぎ」と指摘されてきたエンゼルス・大谷翔平は3日、シアトル(共同)

### フル回転 知将が支え

### けが防止 調整法変更

【シアトル共同】米大リーグ、エンゼルスの大谷翔平(27)が3日、今季最終戦を終えた。メジャー4年目の今季は投打の「二刀流」で9勝、46本塁打と歴史的な活躍を見せ、本塁打王争いではトップのベレス（ロイヤルズ）とゲレロ（ブルージェイズ）にあっという本拠地を離れた。例年11月に発表されるシーズン最優秀選手(MVP)の最有力候補に挙げられている。(関連記事21面)

いた。戦力不足のチームにとっても一人二役でのフル回転は渡りに船。GMは笑っていた。ハッピーだったと思う」とその時の大谷の様子を振り返った。

今季メジャーで初めてこなし投打同時出場は定番となった。臨戦前の外野守備に就く。「三刀流」もあれば、監督は「今季の彼の活躍を再現できるのは彼しかない」と早くも来季に期待した。

### 大谷翔平 米国での二刀流の歩み

- 2018年 4月1日 メジャー初登板で勝利
- 3日 メジャー初本塁打
- 10月1日 右肘の靭帯(じんたい)再建手術を受ける
- 19年 5月7日 右肘手術から打者専念で復帰
- 20年 7月26日 右肘手術から2季ぶりに投手復帰
- 21年 4月4日 2番・投手でメジャーで初めて投打同時出場
- 24日 2番・DHで出場し、途中からメジャー初外野守備
- 5月11日 2番・投手で出場し、途中から外野守備の二刀流
- 7月13日 初出場の球宴で、史上初の二刀流で先発出場
- 8月18日 1番・投手で40号と8勝目。初の勝利と本塁打同時
- 9月29日 今季登板しないことが決定。2桁勝利、2桁本塁打ならず
- 10月3日 シーズン終了。9勝、46本塁打で本塁打王ならず

体の回復に充てる機会が減った。1回のマッサージ時間を減らした。3時間以上に及ぶこともあり、今年は大谷は「脱離しないようにリハビリの方をメインにやってきた」という印象。1と162試合の長丁場で欠場が4試合しかなかった要因をうかがわれた。